

様式第3（第6条関係）その1

平成24年度 地球環境基金
助成金交付申請書

V発第12002号
平成24年5月29日

独立行政法人環境再生保全機構
理事長 福井 光彦 殿

〒103-0022

住所 東京都中央区日本橋室町3-1-10
田中ビル4階(株)日本ビジネスソリューション内
団体名 特定非営利活動法人 VERSTA
代表者氏名 理事長 森田 松太郎 印

(海外ロ案件の場合) 〒 -

代理人住所
代理人氏名

印

下記の活動を行いたいので、地球環境基金助成金交付要綱第6条の規定に基づき、助成金の交付を申請します。

記

活動名	ブラジル連邦共和国サンパウロ州大西洋岸森林保全再生のためのジュサラ椰子 (<i>Euterpe edulis</i>) を主成分とした小農アグロフォレストリー推進プロジェクト形成事業		
活動区分	<input checked="" type="radio"/> イ. 国内の民間団体が行う開発途上地域の環境保全のための活動 <input type="radio"/> ロ. 海外の民間団体が行う開発途上地域の環境保全のための活動 <input type="radio"/> ハ. 国内の民間団体が行う国内の環境保全のための活動		
活動形態	<input checked="" type="radio"/> a. 実践 <input type="radio"/> b. 知識の提供・普及啓発 <input type="radio"/> c. 国際会議 <input type="radio"/> d. 調査研究		
活動分野	<input type="radio"/> a. 自然保護・保全・復元 <input type="radio"/> b. 森林保全・緑化 <input type="radio"/> c. 砂漠化防止 <input checked="" type="radio"/> d. 環境保全型農業等 <input type="radio"/> e. 地球温暖化防止 <input type="radio"/> f. 循環型社会形成 <input type="radio"/> g. 大気・水・土壌環境保全 <input type="radio"/> h. 総合環境教育 <input type="radio"/> i. 総合環境保全活動 <input type="radio"/> j. その他の環境保全活動		
活動の目的及び概要	<p>(助成活動の趣旨・目的)</p> <p>本事業は、熱帯雨林保全による地球温暖化防止活動の一環として、日本人移民の農業開拓等により97%が伐採されたブラジル大西洋岸林(マタ・アトランチカ)の保全を図るべく、マタ・アトランチカに居住する小農に対し、同森林の在来種であるジュサラ椰子を基幹作物としたアグロフォレストリー(AF)を普及することにより、森林違法伐採に依存しない持続可能な農法を確立するための産学官ネットワーク形成を目的とする。</p>		
	<p>(助成活動の概要)</p> <p>本事業では、日伯の森林保全、コミュニティー開発、AF、食品加工、流通販売等の専門家が参画し、マタ・アトランチカに隣接する小農集落(SP州セテバラス市リオプレット集落)における基礎調査(農業、森林採取、農村生活、AFニーズ等)に基づき、1)カウンターパート組織との連携、2)AF中長期計画の策定、3)AF育苗・栽培・管理・収穫等技術指導及び4)果実加工・販売等の実現を図るための産学官ネットワーク事業を行う。</p>		
	申請金額	1, 599千円	
(特記事項)			

※活動区分、活動形態、活動分野はそれぞれ1つに○をすること。

整理番号

24 -イ-B31

[助成活動の内容]

(対象地域の状況・助成活動を行うこととなった背景)

○現状・問題点

ブラジルは世界最大の日本人移民国であり、戦前戦後を通じて約 26 万人の日本人がブラジルに渡った。日系移民の多くはブラジルのコーヒー農園や綿花農園等に従事し、持ち前の礼儀正しさと辛抱強さを発揮し、ブラジル農業開拓に大きな貢献を果たした。

しかし、ブラジルのアマゾンや大西洋沿岸林（マタ・アトランチカ）においては、地域住民の生活改善の遅れによる違法伐採や大規模開発による熱帯雨林の減少が現在も続いており、これを放置した場合、ブラジルの熱帯雨林は激減することが危惧されている。

※ 助成活動を行う地域の状況・活動の背景について、現状・問題点ができるよう具体的に記入して下さい。

(上記の現状・問題点を改善するための助成活動の必要性と目標)

○助成活動の必要性・妥当性

対象地域はブラジル最初の日本人入植地が作られたところであり、本事業のカウンターパート候補者となり得る多数の日系人リーダーが地元行政に輩出している。気候はアマゾンに似て高温多湿で、かつてアサイー椰子がアマゾンから導入され、ジュサラ椰子との交配も行われている。現地を知悉した本 NPO 特別顧問の元サンパウロ州環境局森林院 (IF) 総裁 Guenji Yamazoe (山添源二) 博士は AF で有名なアマゾンの日系トメアスー農協や、地元で堅調な経営を行う日系カップン・ボニート農協を訪問し、栽培技術指導や果肉加工に関する協力申し出を受けた。また、サンカルロス連邦大学の研究者からは、コミュニティー開発における AF の活用について、技術協力の申し出を得ており、要望活動の必要性と実現可能性は高い。

○助成活動の目標（環境保全効果、参加者等に及ぼす効果など）

・複数年次に亘る助成活動の全体目標（3年間の目標）

※ 一般助成で助成活動が複数年次に亘る場合、その全体目標と下の平成 24 年度の目標をできるだけ具体的に記入してください。

・平成 24 年度の助成活動の目標

※ 一般助成で助成活動が単年度の場合、または発展助成の場合は、平成 24 年度の目標のみを記入してください。

平成 24 年度は、セテバラス市リオプレット集落における、ジュサラ椰子 AF 平成 24 年度事業実行計画に基づくパイロット事業の実施を目標とする。

(助成活動の実施方法)

①国内プロジェクト会議の開催：NPO 法人 VERSTA 内にジュサラ椰子 AF 国内プロジェクト委員会を構成し、国内プロジェクト会議において平成 24 年度事業実行計画及びパイロット事業の推進方法について検討する。

②現地共同プロジェクト会議の開催：セテバラス市リオプレット集落等において、ジュサラ椰子 AF 共同プロジェクト会議（地域住民、AF 専門家、AF 研究者、行政等が参加）を開催し、同集落の農業、森林採取、農業生活の実態、AF ニーズの確認及びパイロット事業の実施方法の確認等を行う。会議の検討資料を収集するため、リオプレット集落の農業、森林採取、農村生活の実態及び AF ニーズの事前委託調査を行う。

③パイロット事業の実施：同集落において、平成 24 年度事業実施計画に基づきパイロット事業として、ジュサラ椰子 AF の育苗・栽培・管理・収穫等技術指導のフィージビリティ・スタディ (F/S) を行う。

④フォローアップ調査の実施：同集落において、平成 24 年度事業実施計画に基づきパイロット事業のフォローアップ委託調査を行い、今後のジュサラ椰子 AF 推進のための課題確認を行う。

※ 平成 24 年度の助成活動の具体的な内容や項目について詳細に記述してください。

[助成活動の内容]

【実施スケジュール】

- ・平成24年4月：VERSTA ジュサラ椰子 AF 国内プロジェクト会議の開催（会議費/平成24年4月支出予定）
- ・平成24年5月～7月：ブラジルサンパウロ州セテバラス市リオプレット集落等において、ジュサラ椰子 AF 共同プロジェクト会議事前委託調査の実施（リオプレット集落の農村生活実態及びAFニーズに関する調査費/平成24年7月支出予定）
- ・平成24年7月：同集落等において、ジュサラ椰子 AF 共同プロジェクト会議の開催（会議謝金・賃金/平成24年7月支出予定）
- ・平成24年7月～12月：同集落等において、平成24年度事業実施計画に基づくパイロット事業の実施（ジュサラ椰子及び樹間作物の育苗畑整備資材一式購入費/平成24年7月支出予定）
- ・平成25年1月：同集落等において、平成24年度事業実施計画に基づくパイロット事業のフォローアップ委託調査の実施（フォローアップ委託調査費/平成25年2月支出予定）
- ・平成25年3月：活動状況取りまとめ、報告書の作成

【実施体制】

- ・国内組織：NPO 法人 VERSTA ジュサラ椰子 AF 国内プロジェクト委員（山田祐彰顧問/国立大学法人東京農工大学大学院農学府講師、近井昭夫副理事長/カフェ・ド・セントロ・ジャパン株式会社代表取締役、小野瀬由一専務理事/経営学博士・ICG 登録国際コンサルタント）
- ・カウンターパート組織：ジュサラ椰子共同プロジェクト委員（山添源二特別顧問/元サンパウロ州環境局森林院総裁、サンパウロ州環境局森林院、森林財団、セテバラス市、カンピナス州立大学、ブランコ・ペレス社及びリオプレット集落リーダー等からなる専門家集団）

※ 平成24年度の「助成活動の実施方法（その2-1）」に対応した実施スケジュールをできるだけ詳細に記述し、また、費用の概ねの支出予定時期が分かるようにして下さい。必要に応じて、フローチャート・日程表等を添付して下さい。

（年次計画）…過年度も含めて複数年次に亘る助成活動の場合は、全体についての年次計画を記入してください。

（助成活動により期待できる効果）

- ・複数年次に亘る助成活動の実施により期待できる効果
- ※ 一般助成で活動が複数年次に亘る場合、複数年次に亘る全ての助成活動を実施することで期待できる効果と下の平成24年度の助成活動によって期待できる効果をできるだけ具体的に記入してください。（団体組織に及ぼす効果、その他関係者・関係機関への波及効果など）

・平成24年度の助成活動の実施により期待できる効果

- ※ 一般助成で助成活動が単年度の場合、または発展助成の場合は、平成24年度の助成活動の実施によって期待される効果のみを記入してください。

平成24年度のパイロット事業の実施により、同集落のジュサラ椰子 AF ニーズの把握、ジュサラ椰子苗木生産基盤の確立及びジュサラ椰子 AF 指導体制の確立等により、同集落周辺小農経営の持続可能化とジュサラ椰子違法伐採の防止が期待できる。

その3

〔(助成活動の) 収支予算内訳〕

団体名

特定非営利活動法人 VERSTA

区 分		予算額 (千円)	内 訳	
収入の部	自己資金	460	・正会員16人×年会費10千円+賛助会員6社×年会費50千円	
	寄付金	50	AF AID 積立金から AF 支援寄付金 50 千円	
	補助金・助成金等			
	地球環境基金助成金	1,599		
	総 額	2,109千円		
支出の部	助成対象経費	①謝金・賃金	506	・国内プロジェクト会議謝金 (委員謝金@10千円×3人日) ・現地共同プロジェクト会議謝金 (専門家謝金@10千円×40人日+講師謝金@10千円×6人日) ・現地アルバイト賃金 (@1千円×8時間×2人日)
		②旅費	799	・国内プロジェクト委員航空運賃 (@186千円×3人) ・その他旅費 (@16千円×3人) ・現地宿泊費 (@9.2千円×7泊×3人)
		③物品・資材購入費	176	・ジュサラ椰子及び樹間作物の育苗畑整備資材一式購入費 (育苗畑 250 m ² 、寒冷紗、駆体資材、水道資材、手押し車、ポット・堆肥・肥料など購入費 100千円) ・事前調査委託費 (調査員賃金@1千円×7時間×2人日+報告書原稿執筆料 400字原稿 2.4千円×10枚) ・フォローアップ調査委託費 (調査員賃金@1千円×7時間×2人日+報告書原稿執筆料 400字原稿 2.4千円×10枚)
		④賃貸料・役務費	90	・現地車両賃料・運転手込み (@30千円×3日)
		⑤事務管理費	28	・通信費・運搬費、事務費 28千円
		小計	1,599千円	
	自己資金等充当経費	職員人件費	240	・常勤職員人件費@20千円×12か月
		事務管理費	60	・事務管理費@5千円×12か月
		AF 支援寄付金	50	・カウンターパート組織への AF 支援寄付金 50 千円
		予備費	160	・ジュサラ椰子 AF 支援事業実施に伴う予備費
		小計	510千円	
	総 額	2,109千円		